

# みつぎ便り

120 号  
9 月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成 28 年 9 月 1 日

<http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

## アゲハチョウ (揚羽蝶)

アゲハチョウのはねの色は黒、黄、青、赤、白、緑などの模様が独特の配色をしていて、多彩で大変きれいな色合いをしています。うしろのはねには、大小の突起があり、特に斜め後ろに長い突起が見られるのが特徴です。チョウの仲間でも大型の分類になり、前のはねは付け根から先端までおよそ5cm位あります。

ほぼ全国に分布しており、都市郊外、林、木の多い公園などで見ることができ、時期も三月〜十一月位まで見ることができ、十一月位までは灰褐色から緑色に変化し、特徴的なところは頭部と胸部の間に臭角という一對の角があり、普段は体の中に収納してあるが、外敵などから刺激を受けると、オレンジ色の角が出て、強い刺激臭を発生し撃退します。

山椒、ミカンなどの柑橘類の葉が好みで、新芽の若葉をきれいに食べてしまいます。見次公園には、残念ながら柑橘類の種類がほとんど見あたらないのですが、花壇などの花や水たまり

などにも来ますので、ぜひ観察してみてください。  
(圭)



## ガマ (蒲)

見次公園では、池の東側二ヶ所に見られます。赤褐色の穂は雌花、上部の穂は雄花の集まりです。七、八月には雄花は花粉で黄色く染まります。雌花は受粉すると綿毛の様になり実を付けます。晩秋には綿毛が穂を覆い隠す程になります。

ガマは魚などの産卵場所、隠れ場所になるだけでなく、水中の浄化にも役立っています。

ガマの名前の由来は、昔はこれ(組)と呼ばれる、次第になまって

ガマに変化したようです。

黄色い花粉はホオウという生薬に使われ、利尿、止血作用があります。古事記にも因幡の白ウサギがガマの穂にくるまり止血した場面が見られます。

蒲鉾は昔は魚のすり身を細い竹に円柱状に巻き付け焼いた形が、ガマの穂に似ていることからカマボコ名付けられました。ウナギの蒲焼も昔は筒状にぶつ切りにしてウナギを焼いたことからそう呼ばれたようです。

また、雌花に生じた綿毛を寝具の中に入れて利用したからフトン(蒲団)の字に残されています。ガマは、古来より人々のすぐそばにあった植物です。  
(薫)

